

INDEX	PAGE
【開設記念特集1】 大学院のススメ	1
【開設記念特集2】 こども教育福祉学科	3
私の教育・研究	5
研究助成	6
聖書のことば	7
クリストファーニュース	7
保護者懇談会報告	9
学友会から	10
お知らせ	10



大学 名誉学長 日野原重明氏
「デザインと福祉のデザイン」

聖隷クリストファー大学
大学院博士後期課程保健科学研究科ならびに
社会福祉学部こども教育福祉学科開設記念講演会



7月26日(土)に「大学院博士後期課程保健科学研究科ならびに社会福祉学部こども教育福祉学科 開設記念講演会・祝賀会」を行いました。

第1部は「開設記念礼拝および記念講演会」として、聖路加看護大学名誉学長の日野原重明先生に「看護とリハビリテーションと福祉のデザイン」をテーマにご講演いただきました。第2部の祝賀会には県内大学関係者をはじめ、実習施設、就職先病院・施設、聖隷関連施設など多くの来賓の方々にご出席いただき、ご祝辞を賜りました。総勢約300名の盛大な会となりました。



聖灯祭2008 虹～link with you～

待ちましたと言わんばかりの晴天の中、第7回聖灯祭を迎えることができました。恒例の健康祭では、各学部の専門性を生かし、リフレクソロジーや高齢者体験等のコーナーを増やしました。たくさんの方々に、本学の学生が普段どんなことを勉強しているのか少しですが知っていただけたと思います。聖灯祭を無事に終えることができたのも、各実行委員をはじめ、模擬店や各サークル等の有志の方々、ご理解協力くださった地域の方々や教職員の方々、当日足を運んでくださった皆様のお陰だと心より感謝しています。今回のテーマ「虹～link with you～」聖灯祭に参加した全ての人が、繋がりを通して何かを感じ、一瞬一瞬の人との関わりを大切に、輝かせ続けてくれると信じています。

聖灯祭実行委員長 リハビリテーション学部2年次生 相場竜介 看護学部2年次生 石川美紗子



「キリストの教え」

鈴木 崇巨 著
社会福祉学部 教授
聖隷学園宗教主任
2007年11月
春秋社



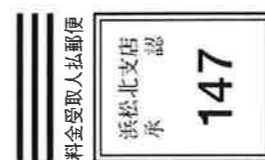
本書はキリスト教信仰の解説書です。
この種の本はたくさん出ているように思われるかもしれませんが、実際はそれほど多くはありません。特徴は、聖書を中心に話が進むこと、やさしい内容であること、表面的ではなく突き詰めていること、日本人の求道者が疑問に思うことを取り上げていることなどです。著者は個人伝道研究会「地の果てまで」という活動を主宰して、キリスト教の布教用テキストを開発しています。本書の「キリスト教概論」の講義も、だいたいの著書の内容に沿ってなされています。講義を受ける学生の多くはキリスト教に接するのが初めてですから、そのような学生にぴったりの本です。共通科目の「キリスト教概論」のテキストとして用いています。



読者アンケートのお願い

裏面の質問にご記入いただき、ポストに投函してください。

郵便番号 433-8790
静岡県浜松市北区三方原町3453
聖隷クリストファー大学
総務部 行

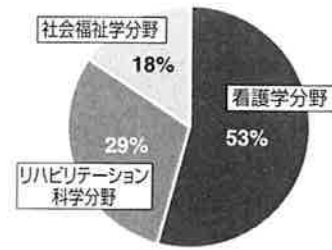


〒 433-8790
発行有効期限
平成22年10月31日まで
切手不要

名前	住所	電話	E-mail	区分
				□保護者 □その他

博士後期課程

●博士後期課程入学者
分野内訳



利用者のQOL(Quality of Life)向上を利用者主体で実現することを目的として、多種の専門職による高度な連携と協働に基づく総合的な援助活動のこと。

IPW(インタープロフェッショナルワーク)とは

「IPW(インタープロフェッショナルワーク)とは、看護学、リハビリテーション科学、社会福祉学の3分野からなる大学院博士後期課程は全国にわずかであり、本学が位置する静岡県、また中部東海地区では本学が初めてです。本大学院保健科学研究科(博士後期課程)では、これら3分野の専門知識を基盤に、現代の保健医療福祉に関する多様な問題の本質を探索、解決することにも、その解決のための研究開発能力とリーダーシップをもつ高度な専門職業者を養成します。また、これら専門職業者によるインタープロフェッショナルワークを基に、クライアントのQOLを高める方法の探索と開発に取り組めます。

博士後期課程 保健科学研究科
キーワードは「IPW(インタープロフェッショナルワーク)とリーダーシップ」

博士後期課程 保健科学研究科

聖隷クリストファー大学

大学院のススメ

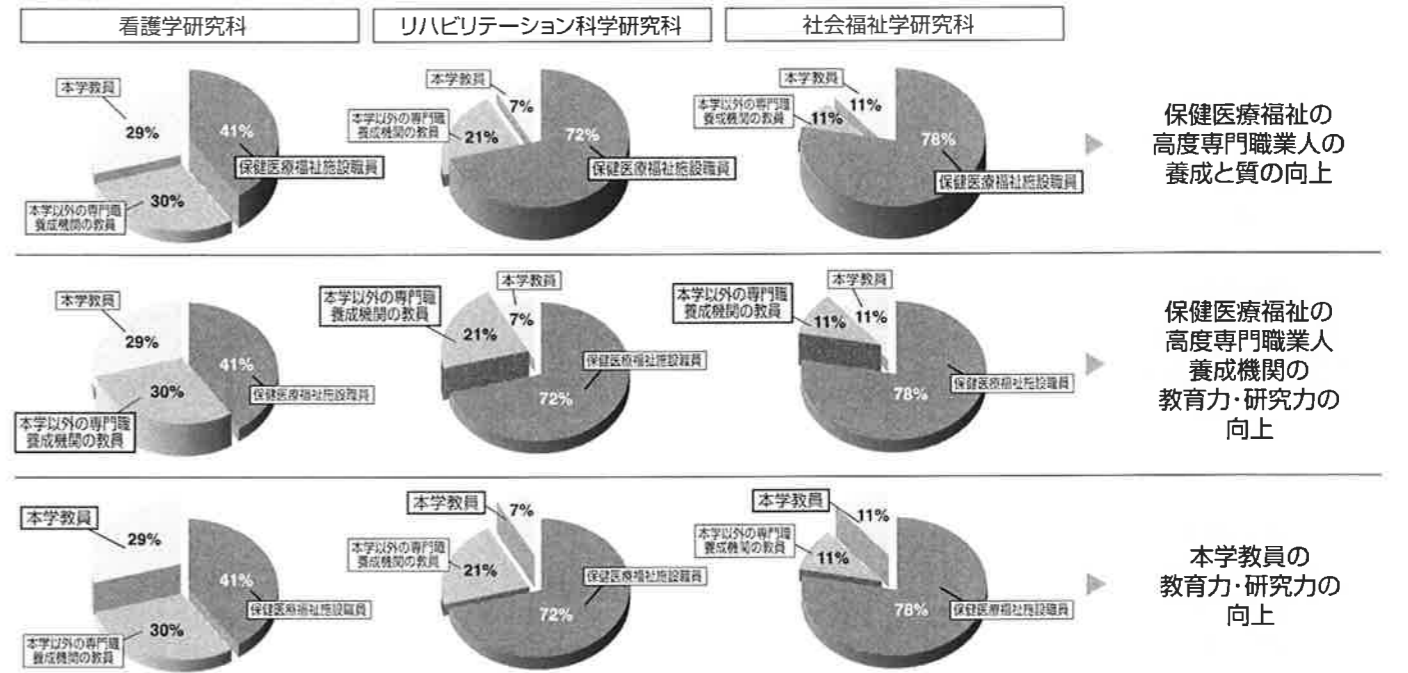
開設記念
特集 1

2008年度、これまでの3つの大学院修士課程(看護学研究科、リハビリテーション科学研究科、社会福祉学研究科)に加えて、看護学・リハビリテーション科学・社会福祉学の3分野を総合した大学院博士後期課程保健科学研究科を開設しました。この機会に本特集では、本学大学院で学ぶ在学生および修了生たちを通して見えてくる本学大学院の保健医療福祉分野における貢献度と、新しく開設された博士後期課程が目指すものをご紹介します。

修士課程

●修士課程入学者から見る本学大学院の貢献度

これまで様々な分野の方が本学修士課程で学び、修了後、それぞれの分野で力を発揮しています。



保健医療福祉の
高度専門職業者の
養成と質の向上

保健医療福祉の
高度専門職業者
養成機関の
教育力・研究力の
向上

本学教員の
教育力・研究力の
向上



●博士後期課程 1期生の皆さんから
「恵まれた環境が魅力です。」
本学学部3期生で卒業後臨床を経て、修士課程を修了、博士後期課程への進学を選択しました。修士課程で行った看護師の静脈注射の実態調査は研究方法に対する法解釈の検討を行ったり、多くの看護師の協力や、万の事故にも備え臨床医師にも協力を得ました。予想以上に研究の備えは奥の深い作業だなど感じましたが、本学の先生方の多くの教示と支援を受けながら、達成することができました。私は、看護師による静脈注射技術について継続して取り組みたいと考えています。修士課程の取り組みで得た大学近隣施設の協力は今後欠かされません。恵まれた環境で、患者さんに貢献できる研究成果を追求していきたいと思っています。(看護学分野/環境・生活支援看護学/基礎看護学 炭谷正太郎さん)

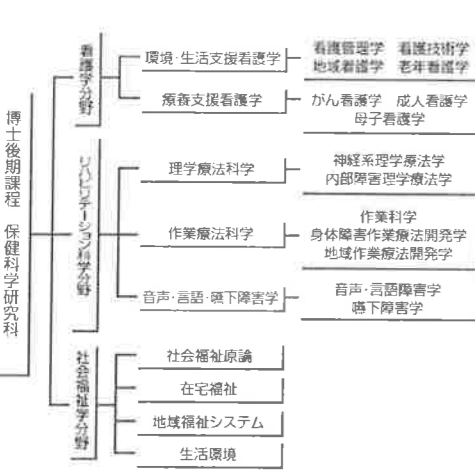
「博士の称号を得て
確実なステップアップを」
本学修士課程において林玉子教授の下で研究を行い、先生からの薦めもあり、修士課程入学の際には考えていなかった博士論文作成という目標を抱くようになり、博士課程でこの目標を達成し、現在、博士の称号を得ることができ、現在の人生の一つの目標となっている「大学における福祉教育に携わりたい」という確実なステップになると考えました。研究内容としては、介護型高齢者入居施設を対象に、ハード、ソフト面(特に人材教育ケア)に分けて、入居者、家族、働く者の視点および施設の史的変遷、成長変化の視点から体系的に把握、考察し、施設の質に関連する要因を明らかにするとともに、また今後望まれる介護型高齢者施設のあり方および

博士後期課程 1期生の皆さんから

「働きの環境が
学べる環境に導かれて」

方向性の一端について提案したいと考えています。社会福祉学分野/生活環境 落合克能さん

「働きの環境が学べる環境に導かれて」
音楽療法士であり、現在他大学で教員としておられますが、本学でもリハビリテーション学部非常勤講師として、音楽療法概論を担当しています。十数年前、米国の施設を視察した際、発達障害児と関わる音楽療法士が、臨床でフルタイムの仕事をするのが、夜はさらに言語聴覚士資格取得を目指し大学に通っていました。また音楽療法士で理学療法士でもある近年注目の神経学的音楽療法家M.タウツ氏の研究室に立ち寄り、独自の研究開発を目の当たりにしました。彼らのプロフェッショナルな環境が与えられ、今春修士課程を修了しました。さらに博士後期課程が開設されたことで、博士課程で学べる環境が整い、選択したというより、必要である私にとって備えられたもので、だと思っています。修士課程では作業科学を専攻し、音楽と脳血流の研究をしました。現在も継続しつつ、地域における専門職の連携(IPW)を通して臨床事例研究を進めています。音楽療法士として臨床に始まり、臨床のための研究を目指します。(リハビリテーション科学分野/作業療法科学/作業科学 山田美代子さん)



光トポグラフィ装置実験室



初めての留学生をお迎えしました

周明芳さん
(看護学分野/療養・生活支援看護学/母子看護学)
中国 第三軍医大学 看護学部 准教授

第三軍医大学と本学の交流協定により、昨年の10月、本学で5ヶ月間の研修機会を得ました。授業聴講、施設見学、病院実習などを通して、聖隷の「隣人愛」の理念、活発な授業、看護師の優しく温かいケア、また、急速に発展している日本の周産期医療と世界トップレベルの新生児医療・看護領域の素晴らしさを実感しました。特に昨年12月本学で開催された「看護・医療・福祉に関する日中大学交流セミナー」では、テーマである保健医療福祉の連携(インタープロフェッショナルワーク)について触れ、その学びを深めることに強い魅力を感じ、今年度本学保健科学研究科を受験し、入学しました。

これからの学びを通して日本文化と隣人愛の理念にもっと触れ、周産期看護を究め、物心両面において支えてくださる皆様や所属する第三軍医大学関係者の期待に応えることができるよう、全身全霊で専門分野の研究にまい進したいと思います。

[科目等履修生・聴講生制度]

科目等履修生制度とは、大学院入学資格のある方を対象に大学院の正規の授業を開放するものです。科目等履修生は本学大学院の講義科目の中から履修科目を選択できます。受講して取得した科目の単位は入学後に、修了に必要な単位の一部として認定されます。また、単位取得を希望しない場合は、聴講生制度が利用できます。看護ケア、医療、福祉サービスの質の向上が常に求められている中、病院・福祉施設などで働く保健医療福祉の専門職者の方々に利用していただきたい制度です。

●博士後期課程入学者のうち 本学修士課程修了生の割合

看護学分野	リハビリテーション分野	社会福祉学分野	全体
22% (2名) [全9名]	40% (2名) [全5名]	33% (1名) [全3名]	29% (5名) [全17名]

●修士課程入学者のうち 本学学部(短期大学部含む)卒業生の割合

看護学研究科	リハビリテーション科学研究科	社会福祉学研究科
32% (23名) [全72名]	25% (7名) [全28名]	21% (4名) [全19名]

●年表

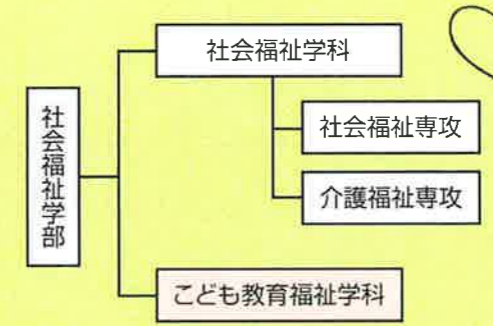
- 1998年4月 大学院修士課程看護学研究科 開設
- 2001年4月 長期在学コース開始
- 2004年4月 大学院修士課程社会福祉学研究科 開設
- 2006年4月 大学院修士課程リハビリテーション科学研究科 開設
- 2007年4月 大学院修士課程看護学研究科 がん看護学分野で専門看護師(CNS)教育課程の認定を受ける
- 2008年4月 大学院博士後期課程保健科学研究科 開設
大学院修士課程看護学研究科 慢性看護学分野・急性期看護学分野で専門看護師(CNS)教育課程を設置

[長期在学コース]

修士2年間の課程を3年間で修了するコース。有職者の方でも退職や休職したりすることなく、在職のまま就学することができます。講義や研究指導は、夜間・土曜日など有職者の方が履修しやすい時間帯で授業時間割を作成しています。

社会福祉学部 こども教育福祉学科

2008年4月、社会福祉学部「こども教育福祉学科」が新設され、34名の1期生を迎えました。本学科では、子どもへの保育と教育、家族支援、地域環境づくりに対応できる専門職者の養成を目指しています。今回は開設記念特集として、その学びの様子をご紹介します。



開設記念に携帯ストラップを作りました。名前は「たっくん」。学科の学生全員の賛同を得て決定しました。創設者である「長谷川保」氏の一字がその由来です。建学の精神を、しっかりと受け継いでいきたいと思っています。

こども教育福祉学科の学生たちは、こんな目標や夢を持っています

- 将来は子どもと家庭の両方を支援できる人になって、児童養護の現場で頑張りたい。
- 保育士・幼稚園教諭のどちらかと思っていたけど、今は児童養護施設で働くことにも興味がある。
- 子どもたちに負けないくらいパワフルな幼稚園の先生、または保育士になりたい。
- 子どもの気持ちを理解できて、子どももお母さん、お父さんもサポートできるような保育士になりたい。
- 幼稚園教諭・保育士・社会福祉士の資格を取得して、この3つを活かせる職場で働きたい。
- 自分が関わった子どもに将来ありがとうと思われるような優しさをもちたい。
- 将来は障がいを持った子どもとも関わっていけるように、社会福祉に関してもしっかり勉強していきたい。
- 幼稚園の先生を目指しているが、今は福祉の視点から子ども教育を考えることが大切だと思うので、ソーシャルワーカーや保育士との連携などいろいろな勉強をしていきたい。
- 子どもたちだけでなく、保護者の方々や、地域の人たちに親しみをもつて接することができるといい。
- 子どもたちが笑顔で毎日を送れるよう支援をしたい。

取得できる資格

※下記の資格は所定の単位を取得することにより得られます。

- 保育士登録資格
- 幼稚園教諭1種免許状
- 社会福祉士国家試験受験資格
- 社会福祉主事任用資格
- 児童指導員任用資格
- 福祉レクリエーションワーカー



保育実習室・機材室

ピアノ演習室

保育内容の研究 表現-身体

手遊び、ダンス、ゲームなど、子どもたちが身体一つでできる遊びを実践して覚えます。子どもたちと遊んでもすぐに疲れてしまわないように、体力向上や健康な身体を作ることもこの授業の目標です。



先生はアコーディオンを弾きながら一緒に動き回ります♪

歌と手遊びが一緒にできる運動をしましょう。

じゃんけんしたり、ぐるっと回ったり…元気に身体を動かします!

学生たちの声

子どもと関わるときの身体の動かし方や皆で動きながらコミュニケーションをとる歌など、楽しみながら学べるよ。

ダイエットにもなります(笑)

年齢に合った子どもの遊びなどを通して、「この年齢の子どもはこんなことに興味を持つのか」といろいろ分かってきました。

保育内容の研究 表現-美術

クレヨンや色えんぴつ、絵の具を使って絵を描いたり、粘土を使って感じたことを表現することを通して、保育者として子どもたちに適切な援助・指導ができるよう学びます。聖灯祭等での展示を通して、将来子どもたちが作る様々な作品をどう展示するかそのアイデアも磨きます。



皆で協力して作った桜の大木(貼絵)

紙粘土で作りました。

今年度は聖灯祭で展示しました。これも勉強の一環です。

物語に沿って絵を描き、お話を添えて…黒い枠を付けて展示用に仕上げます。

学生たちの声

子どもの気持ちを考え、子どもの気持ちになって作品をつくることの楽しさを学べるよ。

子どもたちに絵を描くことや物を作る楽しさを教えていくためには、まず自分たちが美術の楽しさを感じなくては!という先生の教えを実践しています。

保育内容の研究 表現-音楽

ピアノによる弾き歌いを学ぶ授業です。どのように歌ったら子どもたちが楽しめるのか、どのように弾いたら子どもたちがリズムにのれるのか、実践しながら学びます。音楽の基礎的な知識(楽典、楽譜の読み方等)も学びます。



先生のピアノに合わせて皆で合唱。今日は「四季の歌」季節ごとに歌い方を変えましょう。

「音符と音部の違いは…」子どもに音楽を教えるには基本を心得ていないと。

学生たちの声

子どもたちに音楽の楽しさを知ってもらえるように、自分たちの感性を磨く授業。

童謡など、小さい頃歌った歌を皆で歌って、昔を思い出します。

音楽が苦手でも先生が丁寧に指導してくれるから大丈夫。歌うことが好きになれるよ!

小児保健

子どもがかかりやすい病気、発達についてなど、子どもの身体と心について学びます。子どもの状態を把握するための観察と評価や事故予防策など、実践的な能力を養う授業です。



グループごとに分かれて最初は講義形式で。各グループに1体ずつ赤ちゃんのモデル人形が用意されます。

今日は3か月以下の子どもの発達を評価。あやして笑うかどうかやってみましょう。

赤ちゃんを抱っこするのは初めての学生も多いです。

学生たちの声

大人とはこんなに違うんだと驚くことが多いけれど、子どものことについて、特に発達の面でいろいろ知ること、年齢に合った接し方ができるようになると思う。

看護で伝えたいこと、取り組みたいこと



市江 和子 看護学部 教授

■最終学歴：名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻健康増進医学分野博士課程修了(医学博士)
 ■所属学会：日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本小児看護学会、日本家族看護学会、日本社会福祉学会等
 ■研究テーマ：①健康障害をもつ子どもとその家族への看護援助に関する研究 ②障害をもち成長・発達をする子どもとその家族への看護援助とサポートに関する研究 ③看護労働と働く女性のキャリア形成

小児看護に携わるようになり、約20年が経過した。教育機関に所属して14年目である。長いようで短く、実際に自分のこれまでを振り返ると、足跡は何かと考えてしまう。未来を見すえようと思うと、今の年齢を感じ、約8年前、「看護随想―新たな世紀を迎えて」(週刊医学界新聞 第2436号、2001年2月26日)、として、抱負を述べた機会があった。「これからの自己の課題は、教員としての力を高めるとともに、専門性を確立することだと思っている。『専門は何ですか』と問われた時、「これをテーマにして取り組んでいる」と自信を持って言えるようになりたい。自分の興味ある小児看護学の分野をどのように深め、そして、学生にそれをどう伝えていくのか。それが、今後の自分のなすべきことだと思っている」とした。その思いは、その時点よりも強くなってきた。

小児看護は、神奈川県立こども医療センターで勤務したことから始まった。乳幼児外科病棟では、多くの子ども達とお母様やご家族と出会い、スタッフと看護に取り組んでいる。今後も、看護実践を土台にして教育に取り組みたい。学生には、看護を好きになつてほしい。さらに、子どもに対して、興味・関心をもってもらえれば嬉しいと思う。

研究者として、いつも自分に問いかけていることは、対象とする人、患者さん(子ども)に役に立つ研究をしていくことである。現在、興味・関心あるテーマのひとつは「成長障害児と家族への支援」である。成長障害とは、身長および体重の増加不良または増加過剰を意味するが一般的には低身長をさしている。わが国ではこれまでに、成長ホルモン分泌不全性低身長症、Turner症候群、Prader-Willi症候群等に対する成長ホルモン治療が承認されている。治療は生命の危機に直結しないが、治療の停滞が成長障害を残す原因となる。治療をうけている子どもたちと家族には、低身長によるいじめ、自己注射の継続、思春期の性への悩み、および先天性疾患という出生時から続く家族の不安や負担の問題がある。在宅で治療を継続する子どもとその家族への支援について、これからも継続して関わりたいと考えている。

「職業継続に対する看護師への支援」である。自分の看護師時代から、友人、同僚、そして教え子たち等が職場をやめ、看護師を離職していくことが、何かをしなければという気持ちになつてきている。一人の人間として、女性として、キャリアを積みあげることができると、このような支援を検討していきたい。これからも、看護職として、教員としての努力と研鑽を忘れずにしたいと思っております。毎日である。多くの方々からのご指導、ご助言をお願いしたい。

科病棟では、多くの子ども達とお母様やご家族と出会い、スタッフと看護に取り組んでいる。今後も、看護実践を土台にして教育に取り組みたい。学生には、看護を好きになつてほしい。さらに、子どもに対して、興味・関心をもってもらえれば嬉しいと思う。

発見と感動に触れながら

大場 義貴 社会福祉学部 准教授



■最終学歴：愛知学院大学文学部心理学科(心理学学士)
 ■所属学会：日本心理臨床学会、日本病院・地域精神医学学会、日本精神科リハビリテーション学会、日本精神保健福祉士学会、日本精神科救急学会、聖隷クリストファー大学社会福祉学会等
 ■研究テーマ：精神科利用者への生活支援・医療支援に関する心理社会的研究

私は、ここ十数年で、精神科診療所にて心理臨床に携わり、精神障害者社会復帰施設「援護寮」・地域生活支援センターと、精神保健福祉市民ネットワーク(NPO)を設立・運営に携わり、その後大学の教員になりました。

教員になる際に、今までの実践をまとめ直すことと、実践活動との接線の上に立ち続けることを、大切にしていこうと考えました。今回、研究という視点でこれまでをふりかえってみると、
 ①症例研究・実践事例研究の時期②効果測定研究の時期③介入研究の時期というように、自身の仕事と相関して広がり、方法も質的研究、量的研究、ミックス法へと変化していることがわかりました。

1/症例研究・実践事例研究の時期
 診療所では、児童・思春期・青年期層の、統合失調症やうつ病、アスペルガー症候群などを基礎疾患に持つ方たちに対して、心理療法や精神科デイケアの枠で関わりました。精神障害者社会復帰施設では、当事者への居住支援や就労支援などの福祉面での支援システムを、またNPO活動では、市民と連携して、講演会や啓発活動を作り上げていくことが主な役割になりました。ここ十数年の、精神科診療所・社会復帰施設の、利用者の変化は激しく、特に思春期・青年期層

の当事者への対応には、支援の難しさに直面する毎日、毎週ケースカンファレンスを行い、アセスメントや支援方法、効果について、検討する機会を持ちました。いつしか、自分には遠い存在だった学会発表や専門誌への投稿も、症例研究・実践事例研究として行うようになり、他の実践者の発表や研究に興味を持つようになつていきました。

2/効果測定研究の時期
 平成15年度から、教員・研究者の立場になり、精神障がいのある児童・若者への生活支援・退院促進におけるスタッフの意識の比較研究などを行い、平成16年度から3年間、厚生労働科学研究に研究協力者として参加し、量的・質的調査法により、青年期層への早期介入による治療効果因子の抽出や情緒的発達と社会スキルの発達の関係についてモデル化、早期の治療的かわりから生活支援や就労支援を含んだ社会復帰活動に結びつくまでの介入のあり方をモデル化しました。自分が携わってきた支援システムを、研究として扱うという経験では、主観性と客観性のほざまで、苦しい思いをしましたが、結果が見えてくると、実践では気づかなかった発見があり、鳥瞰的に捉え直す経験になりました。

3/介入研究の時期
 現在は、この調査によって得られた結果から、新たな仮説を立て、試験的にアプローチする、介入研究(当事者へのグループアプローチや親への介入プログラムの開発など)に着手しています。また、当事者が、自分自身を研究対象として、取り組んでいくための「当事者研究」についても、支援システムとして、発展させていくことに取り組んでいます。

4/実践―研究―教育の循環モデルへ
 今後の課題は、実践―研究―教育の循環モデルを作っていくこと、学生さんたちと、そのプロセスを共有していくことです。実践や実習における過程を、問題を発見し、仮説を立て検証し考察するという、研究における過程で再度捉えなおしてみると、そこから得られる新たな発見や感動が、沢山あるのではないかと考えています。

研究助成

2008年度科学研究費補助金 採択結果

科学研究費補助金(文部科学省)

科学研究費補助金は、人文・社会科学から自然科学までのあらゆる分野で、独創的・先駆的な研究を進展させることを目的とする文部科学省の研究費補助金であり、公募型研究助成制度としては国内で最大規模の制度です。本学でも研究費獲得に向けた様々な取り組みをしており、2008年度は継続課題4件の他、新規に7件の研究課題が採択されました。

所属	職位	研究代表者	区分	研究種目	研究課題
看護学部	教授	濱松加子	新規	基盤研究(C)	ワーク・ライフ・バランスにむけた子育て支援体制の看護社会学モデルの構築
看護学部	教授	稲垣健治	継続	基盤研究(C)	隣地看護実習前到達度評価のためのCBT実行プログラムの開発と評価システムの構築
看護学部	准教授	森本悦子	新規	基盤研究(C)	地方都市の病院で外来化学療法を受ける高齢がん患者への教育支援プログラムの開発
看護学部	准教授	酒井昌子	継続	基盤研究(C)	訪問看護ステーションにおけるナレッジ・リーダー育成プログラムの開発と実践的研究
看護学部	講師	石塚淳子	新規	基盤研究(C)	ライフコースアプローチによる看護教師の力量形成に関する調査研究
看護学部	講師	富安真理	新規	基盤研究(C)	潜在看護師の自己効力感を強化する訪問看護継続教育プログラムの開発とその評価研究
看護学部	講師	佐藤道子	新規	基盤研究(C)	看護教育における創造的問題解決の教育方法の開発
看護学部	助教	篠崎恵美子	継続	基盤研究(C)	臨床と教育の両者が求めるフィジカルアセスメント教育のミニマム・エッセンシャルズ
看護学部	助手	炭谷正太郎	新規	若手研究(スタートアップ)	静脈注射のエキスパートナースがフレッシュナースの注射技術教育に介入する効果
社会福祉学部	助教	高木邦子	新規	若手研究(B)	福祉職におけるリアリティ・ショックに関する研究
リハビリテーション学部	教授	大城昌平	継続	基盤研究(C)	ハイリスク児の親子教育プログラムと子育て支援ネットワークの開発

厚生労働科学研究費補助金

厚生労働科学事業は、保健医療、福祉、生活衛生、労働安全衛生等の課題を解決する「目的志向型の研究課題設定」を行い、原則として公募により研究課題および研究班の募集を行う研究費補助金です。本学からは1件の研究課題が採択されました。

所属	職位	研究代表者	事業名	研究課題
看護学部	教授	川村佐和子	地域医療基盤開発推進研究事業	医療依存度の高い在宅療養者に対する医療的ケアの実態調査および、安全性確保に向けた支援関係職種間の効果的な連携の推進に関する検討

2008年度共同研究費 配分状況

本学では、本学の教育研究水準の向上に貢献するもので個人研究費では行わない研究を専任教員が一人若しくは共同(学外研究者含む)で行う研究計画に対して共同研究費を配分しています。2008年度は、学長奨励研究A(2006・2007年度中に科学研究費補助金等の学外競争的研究資金に応募して採択かられた研究)、学長奨励研究B(光・ボグライ装置を使って行う研究)、若手奨励研究(講師・助教、助手が研究代表者になり単独または学内外の若手研究者と共同で行う研究)、一般研究枠(新任教員枠を含む)について公募、審査を行い、下記の研究課題に研究費を配分しました。

また、昨年度に共同研究費が配分された全ての研究課題については、本学1号館玄閣ホールにおいて、5月19日から30日にかけて、1回に約15課題ずつ4回に分けてポスターセッション形式の報告会を開催しました。

種別	所属	職位	研究代表者	区分	研究課題
学長奨励研究A	看護	准教授	坂田五月	新規	実践的知識と理論的知識の統合を支援する「新人看護師教育プログラム」の開発
	社福	教授	鈴木崇巨	継続	なぜ韓国は短期間にキリスト教徒多数の国になったか
	社福	准教授	吉川公章	新規	ソーシャルワーク・スキルの伝承に関する研究
	リハ	教授	顧寿智	継続	腎臓移植における抗原特異的制御性T細胞に関する慢性拒絶反応の抑制
学長奨励研究B	リハ	教授	坂本道子	新規	福祉専門職の援助観に関する研究―キリスト教主義施設職員への調査を通して―
	リハ	助教	大城昌平	継続	リハビリテーションと脳イメージングに関する研究
若手奨励研究	リハ	助教	重森健太	新規	介護予防分野での活用を視野に入れた電動バランストレーニングボードの開発
	社福	助手	野方 円	継続	コンピュータ・グラフィックスを用いた介護技術の力学的解析と介護福祉教育への応用に関する研究
	社福	助教	福間隆康	新規	福祉サービスの質の測定尺度の開発
	リハ	講師	中路純子	新規	大学における特別支援教育―現状調査から学内のシステム構築まで―
	リハ	講師	澤田辰徳	新規	意味のある作業が前頭葉に及ぼす効果
	リハ	講師	足立さつき	新規	大学における言語聴覚士養成教育調査
	リハ	助教	重森健太	新規	Dual-Taskを用いた健康教室が脳活動および身体機能に及ぼす影響
	リハ	助教	池田泰子	新規	言語発達レベルと語想起スピードとの関連について ―健常児と言語発達障害児を比較して―
	リハ	助教	建木 健	新規	団塊世代の生き甲斐開発(早期介護予防)モデルに関する研究
	リハ	助手	藤田さより	新規	長期療養者に対する作業療法の試み
一般研究	リハ	助教	根地嶋誠	継続	片脚着地動作における左右差について
	看護	教授	渡邊拓子	継続	フィジカルアセスメントに関するセルフラーニングのための教材研究(その1)～ナノテクノロジーと看護学のコラボレーションについての検討～
	看護	准教授	入江 拓	新規	学生自身の言葉を用いた精神看護学および精神疾患のイメージに関する探索的分析―MoodleSystemによる自由記述データの収集とテキストマイニングによる分析―
	看護	准教授	小平朋江	新規	統合失調症を持つ人への偏見低減のための教育
	看護	准教授	緒方久美子	新規	回復期にある冠動脈バイパス術患者の学習ニーズに関する研究
	看護	助教	篠崎恵美子	継続	看護学教育に貢献する模擬患者養成および模擬患者参加型教育に関する研究
	看護	助教	大塚静香	継続	スタッフが施設の認知症高齢者と関係を継続する要因
	看護	助教	岩清水伴美	新規	こども虐待ハイリスク群の把握と支援方法に関する検討―研究者と保健師の協働によるケース検討会の経過と内容の分析―
	看護	助手	炭谷正太郎	新規	静脈注射のエキスパートナースがフレッシュナースの注射技術教育に介入する教育
	看護	助手	堤 美恵	新規	NICUに入院となった児の母への母乳育児支援―産科病棟における搾乳指導の実状と指導に対する看護者の認識―
	社福	教授	志村健一	継続	聖隷福祉事業団におけるリーダーシップに関する研究
	社福	准教授	大場義貴	継続	精神障害に対する偏見克服に関する研究
	社福	准教授	根本久仁子	継続	国立ハンセン病療養所ソーシャルワーカーの役割機能に関する考察
	社福	助教	小川千晴	継続	認定こども園における子育て支援の可能性について
	社福	教授	林 玉子	新規	要介護高齢者の生活の質の向上に有用な療法の実態と課題
	社福	講師	和久田佳代	新規	障害児・者や高齢者の絵画展の意義と効果
	社福	助教	高木邦子	新規	現代青年の他者軽視傾向に関する研究:「仮想的有能感」とは何か?
	リハ	助教	顧寿智	継続	同種骨髄移植における免疫恒常性の効果とメカニズム
	リハ	教授	大城昌平	継続	中国の母親の妊娠中・出生後のストレスと胎児・新生児の発達
	リハ	教授	小田原悦子	新規	作業療法の独自性の探求
リハ	教授	小島千枝子	継続	摂食・嚥下訓練への舌圧センサ導入の有効性	
リハ	准教授	西田裕介	新規	収縮頻度の異なる一側下肢の選択的足関節底背屈運動が反対側下肢へ及ぼす影響	
リハ	准教授	辻 郁	新規	「充実した経験」を与える作業の探求に関する研究―健康な高校生が行う「労作」を通して―	
リハ	講師	澤田辰徳	新規	作業療法についての世間への認知度調査	
リハ	助教	前野竜太郎	新規	ケアに携わるものへのケアとは何か―学生ホスピタリティの臨床教育における死の準備教育の意味を探る―	
リハ	助教	金原一宏	新規	中部胸椎(肩甲骨レベル)ディスファンクशनに対するモビライゼーション(マニピュレーション)前後の3次元動作解析による研究	

※所属欄の「看護」は看護学部、「社福」は社会福祉学部、「リハ」はリハビリテーション学部

CHRISTOPHER news クリストファーニュース

公開講座

専門職者の更なる質の向上を目指して

今年度の公開講座は「専門職者の更なる質の向上を目指して」と銘打って、地域の保健医療福祉の専門職者一般向けの公開講座を4回シリーズで企画しました。

【第1回】6月28日(土)

子ども虐待の理解と支援
講師/山梨県立大学人間福祉学部 西澤 哲(とむ)教授

保護者による子どもへの虐待が生じる社会心理的要因を解説し、虐待傾向を示す保護者への支援のあり方、虐待によって心理的なダメージを受けた子どもへのケアのあり方について、難しい問題でありながらもユーモアを交えてわかりやすくお話しくださいました。保育士、保健師、児童福祉施設職員の方を中心に、約160名の方が参加しました。



第1回講師 西澤哲教授



質疑応答も活発に行われました

【第2回】8月27日(水)

エイズ患者さんと共に生きる
講師/ハウスマリアフリーデン施設長 ティーレ・ケルコヴィウス氏

ケルコヴィウス氏は今回、NPO臨床パストラルケア教育研修センターの招きにより来日されました。講座には看護師や医療ソーシャルワーカーなどの専門職者や本学教員、大学院生など約40名が参加、ホスピタリティのあり方、施設での仕事内容、スピリチュアルなサポートに関する諸原則などについてのお話に熱心に耳を傾けました。「死を目前にしてスピリチュアルな苦痛をもつ患者さんと接する時の姿勢について学ぶことができた」「難治性の疾患のある方々に対するケアの思想、哲学についていろいろ考えさせられた」などの感想が聞かれました。



第2回講師 ティーレ・ケルコヴィウス氏



スライドで施設入居者の生活の様子も紹介されました

者、地域のSO関係者など約40名の受講者が、自らリーダーシップをとり、歩み出す勇氣を持つことについて考えるよい機会となりました。なお、本学社会福祉学部の志村健一教授は、2009年2月7日から13日にかけて米国アイダホ州で開催される「2009年第9回スペシャルオリンピックス冬季世界大会(アイダホ)」に日本選手団団長として参加します。

【第3回】9月6日(土)

可能性への挑戦
講師/特定非営利活動法人 スペシャルオリンピックス(SO) 日本名誉会長 細川 佳代子氏

講座では、細川氏が17年間のSO活動を通じて、人間の尊厳、生きるということ、幸せの意味などを考え学んできた心の軌跡を話してくださいました。細川氏の生き方からリーダーシップとはなにかを学び、とうとうと集まった保健医療福祉の専門職



第3回講師 細川佳代子氏



7月には本学にてSO日本理事長の有森裕子氏から志村教授に選手団団長の委嘱状が手渡されました

【第4回】11月22日(土)
IPW(専門職連携)に関する講演会
保健医療福祉の連携を編み出す
講師/本学大学院 保健科学研究科・看護学研究科 川村 佐和子 教授

※知的発達障害のある人たちにさまざまなスポーツ・トレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供している国際的なスポーツ組織、SOは非営利活動のため、ボランティアと善意の寄付により運営されている。

国際交流

本学では海外の教育機関と交流協定を締結し、教員および学生の相互交流をしています。今年度は本学・小島操子学長が就任後初めて中国・第三軍医大学を訪問しました。またシンガポール・ナンヤン理工学院から実習生、研修生を受け入れました。

小島操子学長が中国・第三軍医大学を訪問しました

9月11日(木)から13日(土)にかけて、小島操子学長、藤本栄子看護学研究科長、顧寿智リハビリテーション学部教授、大学総務部次長の4名が、中国重慶市にある第三軍医大学を訪問しました。

今回の訪問は、本学と第三軍医大学との今後の交流に関する協議、同大学および附属病院の視察を目的として行われました。滞在期間中は、第二軍医大学の高福鎮行政学長との会談や、大学図書館、看護学部関連施設の見学、第一附属西南病院の視察などを精力的に行い、短期間ながら有意義な訪問となりました。また、本学園からの四川大地震被災支援活動への寄付を記念して、式典も執り行われました。

なお今年4月からは、第二軍医大学看護学部・周明芳准教授が本学博士後期課程保健科学研究科に留学生として在籍しています。



小島学長と高福鎮行政学長の会談



四川大地震被災支援活動への寄付記念式典

シンガポール・ナンヤン理工学院(NYP)の実習生・研修生が来学しました

今年度は、①同学院の看護学科3年生2名、作業療法学科2年生2名の計4名が聖隷連病院・施設等での実習に(9月16日、10月9日)、②看護学科生11名、理学療法学科生6名、作業療法学科生13名、引率教員2名の計32名が本学での授業や演習、学内施設の見学、近隣の保健医療福祉施設の見学などの研修のため(10月3日、10日)、来日しました。②の研修生のうち20名は、日本文化を知るために週末は本学学生宅を中心にホームステイし、交流を深めました。

【実習受け入れ施設】

●看護(2名)/聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜名湖エデンの園、訪問看護ステーション住吉、浜松市西区役所衛生課

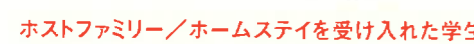
●作業療法(2名)/聖隷浜松病院、聖隷三方原病院精神科デイケア、浜松市根洗学園 ※御協力いただいた病院・施設等の皆様、ありがとうございます。



NYPの学生たち



NYP看護学科生が高齢者疑似体験



ワークショップの様子

ホストファミリー/ホームステイを受け入れた学生たちの声

- どのように過ごしましたか?
○家で友人も呼んで鍋をしました。なぜ今の専攻を選んだかという話から、両国の芸能人の話、両国の文化やお互いの家族についてなど、夜遅くまでたくさん話をしました。
○竜ヶ岩洞や市野のショッピングモールと一緒にに行きました。
○着物をゆかたの着付けをしてあげました。
○日本の料理と一緒に作りました。
●ホームステイを受け入れて良かったことは何ですか?
○シンガポールのこと、日本のことをじっくり話すことができたこと。2日間一緒にいたのでとても仲良くなったこと。
○日本人の中でも育ってきた環境や考え方はそれぞれ違いますが、他国で生まれ育った同年代の子たちはもっと根本的なものから違いがあるのではないかと思います。それに直に触れられて、知ることができました。
●ホスト体験を通しての感想を一言
○最初は1人暮らしということもあり不安もあったけど、シンガポールの学生がとても元気な子だったので、楽しい2日間を過ごせました。
○最後のパーティで研修生が泣いて喜んでくれたのを見て「良かったな」と思いました。私自身、シンガポール研修に行った際に同じような経験をし、とても楽しかったのを覚えています。先輩たちには、ホームステイだけでなく、作業療法専攻学生が開いたランチパーティなど、楽しい企画を続けてほしいと思います。
○いろいろな文化を知りました。また機会があればぜひ、ホストになりたいです。
※ホームステイを受け入れてくれた皆さん、ありがとうございました。

NYP研修生に聞きました「滞在中最も印象に残ったことは?」

- デイケア施設見学...シンガポールと日本のデイケアの違いを学んだことは、自分のできる形で将来シンガポール社会を変えていきたいと思わせてくれた。
○本学教員・学生とのワークショップ...聖隷の学生による発表とその後のディスカッションはお金で買えない大切なことを学んだと思う。日本人の勤勉さと物事に全力で取り組む姿勢をみて自分もそんな人間になりたいと思った。
○高齢者に対する日本人の態度...日本の高齢者は独立心が強く、周りの人も高齢で心身が不自由になった人たちに對して尊敬と忍耐の心を持っていることを学んだ。
○学生とのランチパーティ...食べ物料理の料理法まで紹介してくれて心のこもった温かいパーティに感動した。
○茶道部学生によるお茶会...お茶を飲むの色々な細かい作法があり、お辞儀の角度も3種類あることに驚いた。
○ホームステイ...たった2日だったがホストの家族や友人と一緒に出かけたり、大歓迎をしてくれて一生の思い出になった。



お別れ会で歌を披露するNYPの学生たち



着物を着たNYP学生

防災訓練

「教職員対象」防災訓練を初めて行いました

毎年、学生を対象とした避難誘導、教護等に関する防災訓練は年度当初に実施しています。今年度からは更に教職員全員が災害対策、災害発生時の基本的事項を把握し、実際の災害時に対処できることを目的として、9月1日防災の日、「教職員対象防災訓練」を行うことになりました。訓練には約145名の教職員が参加。はじめに全体で東海地震関連情報や聖隷学園の防災関連規程の説明、各建物の避難設備の設置場所などの確認をしたあと、グループに分かれ、AED(自動体外式除細動器)講習会や避難はしごを使った避難訓練、放水訓練を行いました。



放水訓練



AED講習



避難はしごを使った避難訓練



シリーズ 聖書のことば [長谷川保と聖書]

ハレルヤ。救いと栄光と力とは、わたしたちの神のもの。

(ヨハネの黙示録19:1)

「ハレルヤ」という言葉を聞かれたことがあると思います。聖隷クリストファー大学のクリスマス礼拝では聖歌隊が「ハレルヤ ユーラス」(ヘンデルの「メサイア」の一部)を合唱してくれました。

「ハレルヤ」という言葉はヘブライ語です。翻訳すれば「主を讃美せよ」という意味になります。しかし、用い方はこの文章のように用いるのではなく、「ああ」とか「わあ」というような、二つの間投詞(感動詞)として用いられます。目の前に神様がいらつしやると思つて、「神様! パンザーイ」というような気持を込めて、「主よ、あなたを讃美します」というように用いるわけです。

この間投詞(感動詞)の背後には、「たとえ地上の私はどうなってもかまわない、ただ神にまたキリストに栄光があればよい」という熱烈な信仰が横たわっています。それが聖隷クリストファー大学の創設者の信仰でもあります。聖隷学園宗主任 鈴木崇巨

村上和香奈さん
優勝おめでとうございます

8月29日(金)～31日(日)に小樽市総合体育館で行われた第43回全日本学生トランポリン競技選手権大会(Cクラス)で、本学看護学部3年次生の村上和香奈さんが優勝しました。村上さんは昨年も同大会に参加、準優勝でしたが、今年は予選2位ながら決勝では見事優勝を勝ち取りました。おめでとうございます。



学生会会長
小川 萌
看護学部 2年次生

校友会から

今年度の校友会は、先輩たちの築き上げた伝統を守りつつ新しいことにも挑戦していきます。中でも、学生の意見や要望を校友会活動に反映させることに力を入れています。その一環として目安箱を設置しました。私たち※OOL委員会は校友会の代表であり、校友会は聖隷クリストファー大学の学生全員で構成される自治組織です。学生の生の声を基に、「一人ひとりがよりOOLの高い大学生活を送れるような校友会活動を目指します。」

行事についても、球技大会の種目や要望についてアンケートを全学で行なうなど学生皆で作りにくいこと、皆で楽しめるものにしてほしいと思います。また、学部間の交流の場が少ないので、より交流を深めることができるといいように行事を工夫していきたいと思っております。聖灯祭では、聖灯祭実行委員と報告会を行なうなど連携を深め、聖灯祭を共に盛り上げるよう工夫しました。よりよい学校を創るためにはOOL委員会の力だけでなく、皆さ



●設置された目安箱
設置場所
・クリスタ前
・学生ホール

●2008年度校友会役員

役職	学部	学年	氏名
会長	看護学部	2年次生	小川 萌
副会長	リハビリテーション学部 作業療法専攻	2年次生	齊藤 有子
副会長	看護学部	2年次生	藤澤 亜衣
副会長	社会福祉学部 社会福祉学科	2年次生	鈴木 明日香
会計	看護学部	2年次生	石上 賀南子
会計	看護学部	2年次生	根本 麻里
会計	看護学部	2年次生	桐山 祐香
会計	看護学部	1年次生	森内 祐太郎

※任期:2009.3.31まで

後援会ホームページに
新しいコーナーを
追加しました

後援会ホームページ(http://www.seirei.ac.jp/kouenkai/)に「保護者のためのQ&A」「保護者懇談会」「保護者満足度調査」のコーナーを追加しました。これまで大学報に掲載したQ&Aや懇談会の様子、および満足度調査の調査結果等、ホームページでも随時お知らせしていきますので、どうぞご覧ください。

今年度の
卒業式・卒業パーティは
3月16日(月)に行います

「2008年度卒業式・修了式」はアクティ浜松中ホールにて、「卒業パーティ」はグランドホテル浜松にて、2008年3月16日(月)に行います。卒業年次の保護者の皆様には追ってご案内状をお送りいたします。たくさん保護者の方々のご出席をお待ちしております。

Q1 本誌の全体の印象について○印をつけてお聞かせください。(具体的なご意見もお書きください)

- 1 読みやすい 2 読みにくい

Q2 本誌に興味を持たれた記事に○印をおつけください。(いくつでも)

- 1 開設記念特集1] 大学院のススム 4 研究助成 7 保護者懇談会報告
- 2 開設記念特集2] 子ども教育福祉学科 5 聖書のこぼれ 8 校友会から
- 3 私の教育・研究 6 クリストファーニュース 9 お知らせ

Q3 本誌へのご意見、ご要望、その他大学に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

読者アンケートのお願い

読者の皆様から多数の貴重なご意見をいただきありがとうございました。主なご意見・ご質問に関する回答は後援会のホームページに掲載しています。引き続き学報に関するご意見をいただければ幸いです。お便りお待ちしております。

2008年度保護者懇談会報告

保護者と大学とのコミュニケーションを図る機会として、2002年度から毎年度、大学との共催により保護者懇談会を開催しています。近年、保護者の皆さんからお子さんの学修状況や成績について知りたいとのご要望が強くなり、今年度入学生の保護者の方から年1回、学業成績表をお送りすることが決まっています(第1回の送付は1年次の成績が確定する2009年春になります)。2007年度以前に入学の在学学生に関しては、保護者懇談会に出席の際にご希望のある保護者の方に成績表をお渡しし、アドバイザー教員から学修状況について説明をしています。保護者懇談会に出席されない保護者の方にはご希望により成績表の郵送も行っています。卒業までの長い過程では保護者の皆さんがお子さんの学習状況に関心を持ち、サポートしていただくことが重要です。今後も保護者懇談会の機会をご活用ください。

◆今年度の開催状況

学部	開催日	参加者数	
社会福祉学部	2008年7月12日(土)	社会福祉学科	95組123名
		子ども教育福祉学科※	5組7名
リハビリテーション学部	2008年9月27日(土)	理学療法専攻	39組51名
		作業療法専攻	52組64名
		言語聴覚専攻	26組33名
看護学部	2008年10月25日(土)	看護学科	111組148名

[プログラム]

- ◎懇談会(全体、学年別・専攻別)
 - ◎昼食
 - ◎個別相談・校舎(実習室)見学
- 懇談会の形式、見学でご案内する実習室は学部ごとで異なります。

※子ども教育福祉学科は1年次保護者のみ

奨学金 利用状況

保護者懇談会で相談・質問したい事項として上位に挙げられるのが「奨学金について」です。どのような奨学金があるのか、どのくらい利用されているのか、一覧でご紹介します。(奨学金内容の詳細については「キャンパスライフ(学生生活の手引き)2008」P.33・34をご覧ください。)

◆2008年度 奨学金貸与率一覧(受給割合は各学部学年の学生数に対する貸与実人数の占める割合です)

看護学部	学年	菅野・太田・長谷川奨学会	聖隷奨学会	日本学生支援機構			静岡県看護職特別	静岡県看護協会	M.H.奨学金	岐阜県選奨生	合計	
				合計	一種	二種					貸与人数(実数)	受給割合
看護学部	1年次生	2	20	43	15	28	14	4	—	0	80	53.0%
	2年次生	2	28	57	18	39	8	0	—	0	93	60.8%
	3年次生	2	19	60	22	38	8	0	0	2	89	60.5%
	4年次生	2	31	62	20	42	2	0	2	1	92	57.9%
	合計	8	98	222	75	147	32	4	2	3	354	58.0%

社会福祉学部	学年	菅野・太田・長谷川奨学会	聖隷奨学会	日本学生支援機構			静岡県介護福祉士	あしなが育英会	ニッセイ聖隷健康福祉財団	合計	
				合計	一種	二種				貸与人数(実数)	受給割合
社会福祉学部	1年次生(社会福祉学科)	0	0	27	10	17	1	1	0	29	40.8%
	1年次生(子ども教育福祉学科)	0	0	4	0	4	—	0	0	4	11.8%
	2年次生	0	0	21	3	18	3	0	1	24	31.2%
	3年次生	1	0	22	8	14	3	0	0	22	23.7%
	4年次生	1	0	20	6	14	0	0	0	20	17.9%
合計	2	0	94	27	67	7	1	1	99	25.6%	

リハビリテーション学部	学年	菅野・太田・長谷川奨学会	聖隷奨学会	日本学生支援機構			岐阜県選奨生	合計	
				合計	一種	二種		貸与人数(実数)	受給割合
リハビリテーション学部	1年次生	0	0	48	14	34	0	45	41.7%
	2年次生	3	2	35	9	26	0	38	43.2%
	3年次生	0	0	41	13	28	3	40	43.5%
	4年次生	0	1	36	12	24	0	36	37.1%
	合計	3	3	160	48	112	3	159	41.3%

「聖隷クリストファー大学同窓会奨学金」のご案内

聖隷クリストファー大学同窓会 会長 鈴木喜武

- 奨学金概要/聖隷クリストファー大学各学部の3年次または4年次に在学する学生で、学業、人物ともに優秀かつ健康な者を対象に、月額2万円(年額24万円)を貸与します。返還期間は、卒業後、貸与を受けた月数の2倍の期間としています。
- 在学学生へのメッセージ/同窓会は、「後輩達の為に何かしてあげられる事はないだろうか」との思いから在学学生への奨学金を創設し、今年度から貸与を開始しました。基金は同窓会が寄付し、奨学生の選考や貸与・返還に関わる事務は大学に委託しています。学外実習が始まってアルバイトに制約が生じてきた。実習や学習に専念したいなどの事情のある方、その他同窓会奨学金に関心のある方は、学生サービスセンターまでお問い合わせください。ご応募お待ちしております。